

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32686

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2022

課題番号：18H05727・19K20924

研究課題名(和文) 日本社会の分断における学歴間相互不信と教育意識の連関構造：信頼論アプローチ

研究課題名(英文) Educational attitudes and distrust between college graduates and non-college graduates: Social trust theory approach

研究代表者

大崎 裕子 (OSAKI, Hiroko)

立教大学・社会学部・特任准教授

研究者番号：10825897

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の25-64歳男女を対象におこなったウェブ調査実験から得られたデータを分析し、大卒・非大卒間の学歴間不信、さらには雇用形態、家族形成という新しい社会階層も含めたより一般的な「階層間不信」が生じていることを明らかにした。くわえて、それらの階層間不信はいずれも非対称であった。他者への信頼において、低階層者は高階層者と低階層者を大きく区別していないのに対し、高階層者は高階層者と低階層者を明瞭に区別し、後者への信頼が低かった。さらに、格差容認認識が階層間不信を増幅させる可能性も示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、近年の日本社会で懸念される社会分断について、主に階層研究と信頼研究の視点からアプローチし、学歴を含む社会階層において、異なる階層の人々間の不信の存在とその非対称性を明らかにした。社会的意義として、社会分断の抑制という現代的課題にむけた実践的研究の方向性を示した点があげられる。また、日本社会における分断が主に、上層から下層に向けて生じている可能性を示し、日本社会の記述という点で学術的な意義があったと考えている。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes data from a web-based survey experiment conducted on Japanese men and women aged 25-64, and finds that there is a distrust between university and non-university graduates, as well as a more general "distrust between classes" that includes new social strata such as employment status and family formation. In addition, the results show that all of these stratification distrusts are asymmetric, and that in terms of trust in others, low-ranked individuals do not distinguish between high and low-ranked individuals to a large extent, while high-ranked individuals clearly distinguish between high and low-ranked individuals, and have less trust in the latter. Furthermore, it was shown that the acceptance of disparity may amplify distrust between the two groups.

研究分野：計量社会学，信頼，社会意識

キーワード：学歴間不信 階層間不信 階層間不信の非対称性 分断 機会格差

1. 研究開始当初の背景

社会的立場の差異による格差の問題は、社会科学において解くべき最重要課題の一つとして長く議論されてきた。信頼研究においても、所得や機会の不平等の拡大は人々の間の信頼感を低下させ、社会の発展を阻害すると考えられている。ところが近年、格差社会はより深刻な分断社会へと名を変え再認識されつつある。分断社会の特徴は、格差社会よりも集団の境界が顕在化し、集団の成員が固定化し、集団間の関係が断絶している点にある。したがって社会の分断が進めば、集団間の対立が増大し、人々が自分と異なる属性をもつ集団を信頼できない不信社会を招く恐れがある。そのため信頼研究において信頼と分断の関係を解明する動機は大きい。実際、欧米では人種や宗教による社会の分断とそれによる集団間の対立や不信が目に見える形で確認され、グローバル化や多文化共生社会の実現が難しくなっている。

一方、日本社会では学歴による分断の存在が社会階層研究によって指摘されている。大卒と非大卒の間には所得、機会、リスク、サポート等の分配不均等があり、意識やライフスタイルの面でも明確な格差が存在するという。しかしそのような学歴による分断の帰結として、大卒層・非大卒層の間で利益や権利をめぐる対立が顕在化し、学歴間で考えや行動を信頼できない「学歴間の相互不信」が生じる事態に至っているかは明らかにされていない。

さらに、学歴による分断がなぜ起こるかについて、社会階層研究ではしばしば、大卒層と非大卒層で教育意識が異なる（大卒層は大学進学志向が強く、非大卒層は弱い）ことによる学歴の世代間継承が言及される。教育意識の学歴差が生じる原因はこれまで検討されてきたが、その心理的メカニズムはよくわかっていない。もし学歴分断の結果として大卒層・非大卒層の間に対立や不信があるとすれば、それは両者の教育意識をさらに強化するかもしれない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会階層研究に信頼研究を融合させ、分断社会化する日本社会において、大卒層・非大卒層の間の相互不信と教育意識の間にどのような連関があるかを、社会調査データの計量分析から実証的に解明し、学歴分断という現代日本社会の問題を信頼研究の立場から考察することである。

3. 研究の方法

第一に、大卒層・非大卒層の間に相互不信が生じているかを明らかにする。第二に、大卒層・非大卒層の間の相互不信と教育意識との関連メカニズムを解明する。大卒層・非大卒層の間の相互不信を測定する方法として、日本全国の成人を対象とするウェブ調査法による要因調査実験を行い、様々な社会階層属性パターンをもつ他者に対する信頼を測定する。それらのデータを主にマルチレベルモデルによって分析し、どのような人がどのような人をより信頼する・しないかを明らかにする。

4. 研究成果

(1) 学歴を含む社会階層間の相互不信の構造

当初予定では主に「学歴間の不信」に注目していたが、分断と信頼の関係について検討を進めていく中で、学歴だけでなく、雇用形態（正規・非正規）や、家族形成（既未婚・子の有無）など、近年の日本社会で深刻視される、より新しい階層的属性によってもたらされる不信・分断の状況についても同時に捉える必要があると考え、それらを含む「階層間不信」が生じる一般的なメカニズムについて検討する調査を行うこととした。

研究初年度の2018年度に、様々な社会階層属性パターンをもつ他者に対する信頼について尋ねるウェブ調査「学歴間相互不信と教育意識に関する調査」を実施し、全国の25-64歳男女計1800名から回答を得た。同調査では、要因調査実験により、様々な階層的属性をもつ他者（ヴィネット）への信頼（回答者自身と他者の相互協調が必要な場面で、他者が協力的にふるまうこ

とへの期待)を測定した。それらのデータ分析(マルチレベルモデル)から、「誰が誰をより信頼しないのか」について検討した結果、次のことが明らかになった。

- ・大卒者は非大卒者よりも大卒者をより信頼する傾向がある(学歴間不信)。
- ・正規雇用者は、正規雇用者に比べて非正規雇用者を信頼しにくい。
- ・既婚・子有りの人は、既婚・子有りの人に比べて未婚・子無しの人を信頼しにくい。

これらの結果は、同等の社会階層に位置する他者をより信頼する「同類信頼」=異なる階層の他者を信頼しにくい「階層間不信」が起きていることを意味する。さらに、これらの階層間不信はいずれも非対称であることも明らかになった。すなわち、他者への信頼において、低階層者は高階層者と低階層者を大きく区別していないのに対し、高階層者は高階層者と低階層者を明瞭に区別し、後者への信頼が低かった。

以上から、学歴にくわえ、雇用形態、家族形成という新しい社会階層にも共通する傾向として、「階層間不信の非対称性」の存在を示すことができた(国際社会学会フォーラムで報告済み)。この研究結果は、日本社会における階層間の不信によって社会分断がもたらされると仮定するとき、その分断は、低階層者から高階層者にむけられる視線ではなく、むしろその逆方向の視点からもたらされる可能性を注視すべきことを示唆する。そしてこの現象が、日本社会に固有なものなのか、他の社会に共通するものなのかについても、今後明らかにすることで、国際的なインパクトをもつだろう。

(2) 階層間不信と教育意識・格差意識の関連

上記(1)の研究では、学歴を含む階層間不信の非対称性を明らかにした。続いて、学歴間の不信が教育意識とどのように関連しているか、そのメカニズムにかんする仮説を設定するにあたり、文献調査や関連する社会調査データの分析から、教育機会の不平等認知が学歴間不信を増幅させる可能性があることに着目した。これを一般的な仮説へと拡張し、教育機会をふくむ「機会格差」に対する人々の評価と階層間不信の関連メカニズムとして、「機会格差認知が階層間不信を増幅させる」との仮説を設定した。

(1)の研究で明らかにした「学歴間不信の非対称性」をふまえると、学歴間不信の非対称性が生じる理由として、学歴間(不)信頼が「意図への(不)信頼」と「能力への(不)信頼」の下位要素をもち、特に能力(不)信頼が非対称性に影響していると予想される。さらに、上述の仮説「機会格差認知が階層間不信を増幅させる」より、学歴間での能力(不)信頼に影響し得るものとして、格差・競争意識に着目することで、「学歴間不信に対し、格差・競争意識はどのように影響しているか」を、2018年に実施したウェブ調査実験データから検証した。その結果、格差容認(競争支持)が強いときに、大卒者による大卒者への相対的信頼が高くなる傾向がみられた一方で、非大卒者の方は格差容認による学歴間信頼の差が小さかった。この傾向は、学歴以外の階層変数(雇用形態・家族形成)でも確認された。これらの分析結果から、「高階層者による格差容認→階層間の能力信頼」仮説を提示するに至った。同仮説の妥当性をさらに精査するための課題として、階層間の意図信頼モデルの検証や、低階層者による階層間信頼の原理解明(高階層者とは異なる説明)の必要があることも示された(数理社会学会で報告済み)。

これらの研究成果をふまえ、学歴を含む階層間信頼の下位構造(能力への信頼、意図への信頼、価値共有に基づく信頼、の3要素からなる)について検証するウェブ調査実験を新たに2022年度に実施した。現在までの分析により、階層間信頼の3つの下位要素の間の相関構造、および、それらの3要素それぞれによって上位の階層間信頼が説明される程度が、学歴や他の階層変数によって異なることを明らかにしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 大崎裕子
2. 発表標題 格差認識が階層間不信に与える影響
3. 学会等名 第74回数理社会学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大崎裕子
2. 発表標題 学歴の異なる他者に対する社会的寛容性の構造
3. 学会等名 第72回数理社会学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大崎裕子
2. 発表標題 教育格差認識が幸福感に与える影響にかんする日韓比較分析 アジア型ウェルビーイングと格差・不平等（3）
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Osaki
2. 発表標題 Social Distrust in Divided Societies: Evidence from Factorial Survey Experiment
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroko Osaki
2. 発表標題 Does Generalized Trust Moderate the Effect of Relative Income on Happiness?
3. 学会等名 The International Society for Quality-of-Life Studies 17th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大崎裕子
2. 発表標題 大卒者・非大卒者間の相互不信の分析
3. 学会等名 第68回数理社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大崎裕子
2. 発表標題 大卒者・高卒者間の相互不信と大学教育への支持 科学観・高等教育観の計量社会学
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------